

# ハワイ産業事情視察団派遣記



去る8月9日より17日の9日間の日程で、小川甚次郎当センター理事長を団長としたアメリカ西海岸・ハワイ産業事情視察団が派遣され、山田治男（石織櫛社長）、小川三郎（小川商事櫛社長）の両副団長以下51名は、サンフランシスコ、ロスアンジェルス両都市の視察の後、ハワイのホノルル市で開催された「石川県の観光と物産展」に参加した。

同視察団は石川県の物産展の開催にあわせて金沢商工会議所と石川県物産協会の共催で派遣されたものであり、同物産展は県物産協会（小川甚次郎会長）が、県内特産品の幅広い振興を図る上で、昭和50年からホノルル白木屋で開催している。

特に今回は、過去2回の「石川県の観光と物産展」に対する現地の関心が高まって来たことを理由に、有吉ハワイ州知事が石川県とハワイ州の経済交流と相互理解を深めたいとして中西石川県知事を招待し、これを受けて中西知事が初めて同物産展に参加した。

小川団長をはじめとする同視察団は中西知事と共に、有吉州知事、在ホノルル塚本総領事、ホノルル市助役、ハワイ商業会議所、日本商工会議所等の関係者と懇談し、今後の経済交流を促進するうえで大きな成果をあげた。

「石川県の観光と物産展」は、本年度3回を迎え、8月13日から21日の間、アラモアナショッピングセンター内の白木屋で開催された。

同物産展には初日から、待ちかねた日系人や現地人の人達で大盛況で、実演即売のコーナーは特に好評を呼び、山中漆器の即売等は予約が殺到する程であった。

今回の物産展には、県内25社から九谷焼、山中漆器、



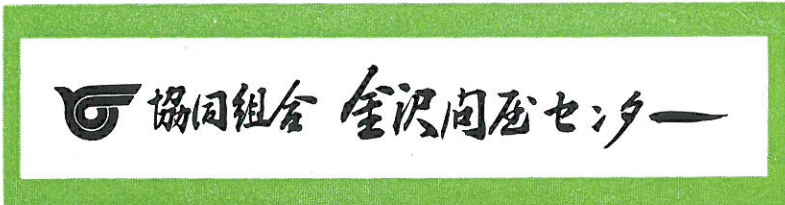
桐工芸、菓子、海産物など250種類が出品された。当センターの小川櫛、石織櫛、小川商事櫛の3社からは、加賀友禅の訪問着、服地など15点が初めて出品されたが、その伝統工芸の技法と芸術性が現地で高く評価されていた。

出品総額は昭和50年350万円、51年650万円、ことしが1600万円と毎年倍増の勢いとなっており、好評の商品は今後継続して直接取引の増加が期待される。しかも商品は買取りのシステムなので有利でもある。又、金沢の観光宣伝の一つとして、同物産展の開会式のあと、アラモアナショッピングセンターのショーステージで東料亭組合の芸妓美ち奴さんら3名による「加賀とび」「百万石」が披露された。一方、京都きもの学院（酒井美意子学長）の学院生による「きものショー」も同時に公演され、ステージの回りは人垣で埋めつくされる程の人気で、同物産展を盛り上げた。



物産展の会場の白木屋をはじめ有名店160社が入居しているアラモアナショッピングセンターは、8000台の駐車場をもつ超大型のショッピングセンターである。

同視察団がハワイ経済界の関係者との懇談を通じて紹介されたハワイの経済状況については、ハワイの経済は3本の柱で支えられている。1つは連邦政府の支出であり、次に観光収入、そして砂糖産業である。なかでも観光は増加の一途をたどり、昨年初めて300万人を超える観光客があり、観光に依存する割合は今後高まると思われる。砂糖産業を保護する目的である砂糖法が廃止されて以来、混乱と低迷が続いていたが、本年5月の同産業の保護政策の実施により息を吹き返している。又物価については、アラスカに次いで高く、これは生活必需品の全てが船便によるためである。特に近年港湾ストの影響で、消費者物価の上昇、買占め、が発生する等海上交通の問題解決が物価安定の上での大きな課題である。日本企業の進出も1970年代から本格化しており、現在110社が進出し、特に急激に増えた日本人観光客のために観光業者の進出が盛んで25社が観光業者である。



第10号 1977年11月10日発行  
協同組合 金沢問屋センター  
発行者 小川 甚次郎  
金沢市問屋町1丁目  
電話 37-8585

## 金沢問屋センター完成10周年記



### 流通拠点へ体質改善 金沢問屋センター完成10周年を祝う

さわやかな秋晴れの下、協同組合金沢問屋センターの完成10周年を祝う記念式典は、4日午前、テント張り特設会場で開かれ、10年間における問屋センター加盟147社の団結と協調を祝福、北陸地区の流通の拠点としてさらに企業の体質改善を図るなど今後の発展を力強く誓った。

式典には約120人の来賓のほか、問屋センター関係者や加盟各社の社長並びに従業員ら約800人が出席した。高らかなファンファーレの後、荒木登氏（荒木商事櫛社長）の司会により、先ず国歌斉唱に続いて高田甚造（元理事長）山田藤太郎（同）吉野省吾（元副理事長）各氏ら24人の物故組合員に対して全員黙とう、故人の冥福を祈った。

最初に小川理事長が「満10才の誕生をみたセンターを共に喜び、光栄に思い、これらの飛躍のためにも一層の努力を重ねたい。14年前の当時、零細流通企業が日の目を見るために、都市の過密化による交通難、経営の近代化を図って単独企業思考から集団化思考あるいは、旧態ゼンとした企業活動の改善といった共通の悩みを解消すべく、新しい時代の転換を求めて、国・県・市の行政当局、金融機関、農業関係者らの協力のもとに、新天地を探し8万3千坪の現在の土地に昭和42年10月14日に101社が集い完成式を迎えた。現在、厳しい社会、経済環境のもとにあって、集団化当時の原点に戻り各企業は体質の改善を図り、大いなる発展のために努力を積み重ねる」と式辞を述べた。

次いで才田敏克氏（丸与商事櫛社員）ら永年勤続従業員442人を表彰し、江田清氏（明希櫛社員）が代表して「先輩のご指導に感謝するとともにそれに報いるためにも本日の栄誉を心にきざみ、金沢問屋センターの発展に努力する」と力強く謝辞が述べられた。又地域社会発展のために多大の貢献をされた若林保四（櫛寿商會社長）中嶋捨吉（中嶋帽子店主）両氏に特別功労組合員として感謝状と記念品が贈呈された。

続いて来賓各位から祝辞が述べられた。倉部行雄名古屋通産局長（通産大臣代理）が「全国で120程の商業団地の中で金沢問屋センターは輝かしい第1号である。大きな画期的な団地を旨とし、加盟の各企業は勿論のこと、メーカー、小売、消費者と一体となり、金沢の都市問題にとり組んできた」中西陽一知事が「全国で初めての流通団地で組合員が協力一致、一致団結して仲良く事業をすすめている金沢問屋センターが自慢である」、佐久洋中小企業振興事業団理事長、岡良一市長、宮太郎商工会議所会頭らが祝辞を述べられ、福田総理大臣らの祝電が披露された。

最後に各企業社員から一般募集した、完成10周年記念に新しく制定した「金沢問屋センターの歌」（作詞・八十嶋卓弥、作曲・大村松雄）が、MRO合唱団により、明るくリズムカルに披露された。

式典後会場をセンター2階に移し、各社の社長と来賓者が参加してパーティがなごやかに開かれた。S氏「努力、執念のすばらしさを感じました…」、M氏「経済環境の厳しい中で、中小企業の団結が立派に実を結んだ」、A氏「未知の世界の分野に挑戦をして、20年目に向けて未来に続く問屋センターを強く感じる…」、T氏「これからの真価を発揮する時代である。豊かな経験をいかして次の20年、30年と魅力ある金沢問屋センターを造りたい」喜びあふれる言葉が次から次へと聞かれました。 広報委員 矢部 嶺 男



来賓の祝辞



永年勤続従業員表彰



金沢問屋センターの歌披露  
(MRO合唱団により)



式典会場



パーティでの祝宴踊り



記念パーティ

### 金沢問屋センター完成10周年記念

# 特別販売大会

52年10月6日・7日

10周年を記念しての特別販売大会は最需要期を迎え、秋冬物の売込本番に当り、熱を帯びた商戦が展開され、厳しい経済事情にかんがみ、より力が入った販促がなされた。会館2階ホールではじゅらく迎春向新作特別展が催され盛況裡に商談がはずんだ。

今年の帯の柄行は白地、軽妙、繊細と買いやすい商品に力が入られ、値段も程々の所に落ちついていた。駐車場の特設大テントでは民族衣裳のファッションショーが行なわれ、横では今年のニューモデルを含めた、トヨタ、日産のカーフェアが同時に催され、カーマニアの垂涎をそそった。また各社の会場では、今年の売れ筋を色々模索し、知恵を絞った、ディスプレイと販売が行なわれた。消費不振の折から、小売商戦もボリューム商品に重点を置かず、季節商品はファッション性の強い物、時期に応じた物に、素早い反応を示している。

必要性に富んだベビー、ジュニア物は数量、単価共に安定微増しているが、婦人物は単価、呉服物は数量の面で漸減し、紳士、雑貨類は両者共非常に厳しい情勢にあるが、ベビー、ジュニア物も中央からの巨大スーパーの進出による単価の変動等に対応するスピードが必要である。婦人、呉服物は景気動向から消費者にシェアが生じつつあり、高級品とボリューム商品の2極に対応しつつ、ファッション性の追求も必要課題である。

紳士、雑貨類については、一時期より手応えはあるものの、より一層、小売店店頭、また量販店店頭の動向に触角を働かせ、適正な価格を守る様にせねばならない。



じゅらく展会場



民族衣裳展



民族衣裳展

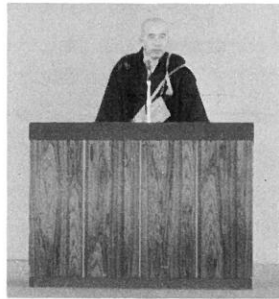


トヨタ・日産カーフェア

# 日本人らしく

## 10周年記念 特別講演

高田薬師寺管長



当センターでは10月4日、完成10周年を記念して、高田好胤薬師寺管長を招き「日本人らしく」と題する講話を聞いた。要旨は次のとおり。

日本人としての初心に帰って、お互に人間として人間らしいあり

方に、女は女らしく、男は男らしく、初心に帰ることが、私どもの生活に大切なことである。教育は教育の立場、宗教は宗教の立場、経済は経済の立場で、初心に帰ることを思うにつけても、今日まで、先祖以来のどのような心が、日本人の心を温め育ててきたのであろうかということをおぼろげに思わなくてはならない。

私どもは両親から生まれてきた。両親も、その両親から生まれてきた。そうして、25代さかのぼると、先祖の数は33,554,432人という大きな数になる。時間にして、700年から800年になります。30代さかのぼると、10億を超える先祖の数になります。私どもは、とかく「自分の命は自分のもの」なんだと簡単に考えがちですが、大変な数の先祖の命が、私どもの命の中に生きていくことを忘れてはならない。

過去に対する謙虚な心の養いが、私どもの子孫の時代に豊かな世の中を残すことになる。それが基本的な世造りの初心である。

先祖に対して、子孫として真心を尽してお仕えることを祭りという。先祖に対する感謝の気持ち、恩というのは、して貰ったことを憶えている、して貰ったことを思い出す。これが恩である。先祖に対する報恩の気持ちを持って子孫として真心をこめてお仕えるのが祭り事である。祭り事で国を治め、家を治めてきた。祭り事は、日本民族の尊い智恵であり、その総本家が天皇さまである。

両親に、子供として真心を捧げることが孝行である。親孝行と祭り事の縦の人倫の道をなおざりにしていることに、今日の世の中の混乱と混乱の大きな原因がある。

人の心を温かく育てる、それが母の心である。今日、母心が段々希薄になってきました。そこに、ハイジャック事件などの一つの原因がある。もちろん、それを是正するには家庭生活における祭り事を忘れてはならない。

日本人は、家庭生活の中で本来、祭り事の場を持ってきました。遠い先祖を神さまとし、身近な先祖を仏さまとして、神さま、仏さま、ご先祖さまの祭り事の

場を持ってきた。祭り事をする親を通して人の心、子供の心が養われてきました。だから、分家をする時には、財産を分けるというような物だけでなく、先祖の心、家の歴史を分ち与えるということが分家である。仏壇、神棚を持って分家することである。この頃は、家が狭い、団地だ、アパートだということで、神棚、仏壇を持って分家することが段々と薄れてきた。

私は、修学旅行の子供達 300万人に、薬師寺という民族の歴史の現場で、日本歴史を語り、仏の道を説いた、と本に書きましたが、本当は、修学旅行の生徒 600万人、700万人に接してきました。じゃなぜ 300万人と書いたのかと云いますと、奈良や京都に修学旅行に来る生徒は、行くところ行くところがお寺だから、またお寺か、またお寺かと思う。だから、体はお寺にあっても、心は宿へ帰ってしまっている者が多い。だから、本には最初 500万人と書いたのですが、校正の時に 500万人でもまだ多いと、300万人に書替えた。

それらの生徒に接して、家庭生活の中に仏壇がある、神棚がある、老人がおられる、という家庭の子供は「そんなことをしたらもったいない」と云い、そうでない子供達は「そんなことをしても無駄だ」と云います。同じ一つの事柄を「もったいない」という心と、「無駄だ」としか受取れない心とは大変な違いです。

どんなに豊かな物に恵まれ、経済的に恵まれても、有難い、お蔭なんだ、もったいない、と喜んで感謝する心のない人は幸せではない。

自我と知識から出てくるのは不幸と不満であり、権利の主張である。無我と智恵の養いから喜んで感謝する心が生まれ、権利の主張だけでなく、世間からいただいているお蔭という心です。人間として社会人として、お蔭返しをしなければならぬんだという生き方の心掛けは、無我と智恵の中から生まれてくる。これは学校教育の中では出来ないで、家庭生活の中で親の姿で子供を導く以外に、いまや方法はない。

世造りのために、家庭生活の中に祭り事をして親の姿が、子供達の心を育ててきた先祖伝来の民族の智恵を心しなければいけない。この頃は、祭り事が家庭生活の中に段々なくなってきている。団地に暮し、アパート暮らしだから神棚や仏壇を持って行っても置く場所がないというが、それは祀る心がないので、いまでは小さな神棚、仏壇が出ています。どんな狭い家でも電気洗濯機があり、テレビがあり、冷蔵庫、ステレオがある。中にはピアノまである。生活に便利な、楽しみを与える物の面では、あらゆる創意と工夫を与えるが、心の面はなおざりにして頼みない。物と心の調和の崩れが家庭生活の中から、物で栄え、心で滅びてきた大きな原因の一つです。だから、家庭生活の中

に、必ず祭り事の場を置いて貰いたい。

親の祭り事をする姿を子供に見せる。そういう場がどうしても必要です。朝起きたら「オハヨー」夜寝る時「オヤスミ」と親に挨拶をするのだと、いくら子供に教えても親の云うことを聞かないが、いつともなしに親の姿を見よう見まねで学んでいくのが子供です。親の姿を真似るところから教育の始まりがある。真似るが学ぶになる。人生の初めての教育者は親です。親の足りないところは、神さま、仏さま、ご先祖さまに導いていただく。

思いやりの心がなかったら、敬いあう心がなかったら、世の中は美しくも、豊かにも、楽しくもならない。これが形、姿に現われて礼儀、礼節となる。礼儀、礼節の一番基本的な養いの場が朝晩の親子の挨拶である。挨拶という字も、拶という字も、心がふれ合うという意味です。人の心と心が通じ合うのが挨拶です。

孔子が説かれた道徳の世界、儒教の世界で最高の世界は、仁の世界だといわれた。仁とは二人の心が通じ合うということです。仏教の慈悲の世界を儒教では仁の世界という。親子の朝晩の挨拶が世造りの一番基本の道である。お茶で和敬というのは思いやり、うやまう心です。これを通じてこそ静寂という心と心のふれ合う温かい世界に住むことが出来る。

三度のご飯をいただけることを幸せだと手を合せて挨拶する。幸せを忘れてはいけない。幸せを幸せとして忘れていくところに、今日の不幸があるのです。朝晩の挨拶をせよと理屈で教えてもだめなんで、親の方が先ず、先祖に対する祭り事をして貰う。その親の後姿を見て子が挨拶をするようになるのです。仏壇を拝む時に、どうか良い線香をあげてください。奥深い香りが、日本人の心を養ってきたのですが、最近、香りの豊かさを忘れていく。先祖への一番のご馳走は良い香りです。先祖孝行こそ子孫孝行になります。先祖を祀りお給仕することが祭りである。

私は結婚式の時に、必ず父母の恩が如何に尊いものであるかということをお二人の心から説明した「父母恩重経」の和文にしたものを、新婚の二人にお渡しすることにしている。私は昨年、この父母恩重経を元にして「母」という本を出しました。このお経は、母が出てくるところは33ヵ所あるが、父が出てくるところは11ヵ所しかない。母親については具体的に書かれているが、父親はだき合わせのように時々出てくる。

お釈迦さまがなぜ、こんなに母に心をかたむけておられるかという理由がある。お釈迦さまは、西暦紀元前 565年 4月 8日、いまから2542年前に花園でお生まれになったが、難産だったため、生まれて7日目にお母さんがお亡くなりになった。だから、1目もお母様の記憶がない。第2のお母さんは、亡くなられたお母さんの妹さんですが、慈愛をかたむけてお育てになった。育てて貰ったお母さんには、仏法の道で恩返しをされ、79歳まで生きられたお父さんには、子供として看病しておられる。そのお姿が父母恩重経の中に出てくる。看病の大切さは、福田(フクデン)の中で説かれてある。今日の言葉でいえば、お寺参りをして仏さんを拝んでいるより、家に病人があるなら病人の

看病をすることの方がもっと尊い、と教えておられる。

しかし、自分を生んで下さったお母さんには何一つご恩返しが出来ていない。そのお母さんへの気持ちが底に流れているため、父母恩重経は、お母さんの方へ片向いてしまっており、飾り気のないお釈迦さまの気持ちで書かれているところに、人を引きつけるものがある。仏教は母なる心の温かい宗教であるといわれる。

このお経の中に、10の徳目に分けて親の恩が説かれている。遠いところへ行った子供のことを、寝ても覚めても考えて下さる。また、生前はもちろん死んでいくまで親は、子供のことを考えて下さる。

岐阜県の飛騨の高山の北の方に古川という町がある。そこに蕪水亭という旅館がある。昨年10月、飛騨へ講演に行った時に泊めて貰った蕪水亭に北平ハル子さんという今年69歳の方がおられる。そのお婆さんが「私が生まれて1年半した時に母が亡くなった。2歳上の兄がありました。私には、母の記憶は全然ありませんが、母が残してくれた手紙があります。その手紙を母の心として、60数年生きてきました。そして母の心で、私は子供を育ててきました」ということで、その手紙を見せて貰いました。その手紙は、戦後巻物にしてお仏壇の中に祀ってありましたが、二人で夜の1時半頃まで泣きながら読みました。そのお母さんは病身で、24歳で亡くなったのですが、この手紙は、23歳の時に書き残されたもので、立派な筆蹟のもので、この中身が尊いのです。

その手紙には、こう書かれています。「かりそめならぬ病を得て入院中なので書き残すが、われ亡き後は、その心を読んで反省されんことを願って止まず。——(略)——不幸にして、私が早く死んだとて、決していじけてはいけませんよ。ただ、心掛くべきは、己に克つことです。」これからの、親の命をかけた願いが説かれます。

「我がままも、不勉強も、不正直も、不従順も、怠惰も皆弱い意志のために己に負けることです。どうか己に克つ、この一字を肝に銘じてお進みなさいませ。さすれば、お二人には、お二人の運命があります。その運命は必ず開かれます。人は悲観すれど、仏さまは、決して我慢のならぬよな運命をお作りにはなりません。忍べない運命はないのです。忍べないと悲観するのは、我がまま、己に負けることです。天は自ら助くるものを助く、と申しますから、自暴自棄におちいることのないようにお進みなさいませ。——(略)——と書かれています。そして、兄が15歳になるまで封を切ることを許さず、と書かれています。

真実の夫婦の対話は、死に分かれた日から始まる、といわれます。真実の親子の談話もまた、死に分かれた日から始まるものです。生き続ける親子の対話は、親の後姿です。私どもは、子供の心の中に永遠に生き続ける親子の対話を、子供のために残してあげることが、親の務めだと思います。この話を聞かれる人は、明治のお母さんだけの話ではなくて、日本の歴史を貫く典型的な日本のお母さんの姿であり、心であります。

# 恒例、社員園遊会華やかに開催!!

問屋センター完成10周年のフィナーレをかざる恒例社員家族園遊会は、10月8日、午前11時より、特設テントをメイン会場に、会館2階ホール等、あいにくの小雨にもかかわらず、5000人の社員家族で終日にぎわいをみせた。

### ◆のみの市

恒例のみの市は参加商社30社による特別価格商品を公園横から、会館前、北陸銀行横路上など特設小テントが立ちならび、おもちゃ、洋服、反物、靴、日用雑貨等、かけ声いさましい、ねじりはちまきの各社社員に会場は盛り上り、タコ焼を片手に買物をする女子社員等々、非常なにぎわいを見せ、寿しコーナー、焼そばコーナー、おでんコーナー、ジュースコーラー等の飲食店もたちまちの内に売切の盛況であった。

### ◆アマチュア美術展

社員家族の出品による美術展は会館ホールにおいて、日本画、洋画、写真、手芸等の作品100点にてにぎわった。

### ◆の だ て

問屋町茶道教室の生徒15名によるお抹茶サービス

### ◆生 花 展

生花教室の皆様による出展は40点

### ◆手相鑑定

高島天象氏による無料鑑定、女性客が非常に多く、運勢はいかに?

### ◆のど自慢大会

北陸通信工業株によるふるバンド演奏により、各社より、日頃ののど自慢の社員20名参加

### ◆氷彫刻コンクール

調理士会の特別参加による氷彫刻コンクールは特設大テント会場に於いて、県内のホテル、レストランのシェフさん17名の参加のもと、手に手に大小さまざまなノミ、ノコギリを持ち、180kgの氷柱にいどみ、1時間の内に、氷の柱は白鳥や、エンゼルフィッシュの美しい姿に変わった。

審査は石田康夫金沢美術工芸大学助教授ら5名が審査、氷の大きさをどう生じたか、美しさ、アイデアをチェック。最優秀賞を小寺保さん(金沢スカイホテル)の「赤とんぼの家族」が獲得、金沢市長賞は、小瀬正治さん(金沢ニューグランドホテル)が受賞した。

### ◆大鼓行列

午後より問屋町子供会、問屋住宅子供会 100名がそろいのハッピーに身をつつみ、元気よく出発。園遊会に花をそえた。



社員のど自慢大会



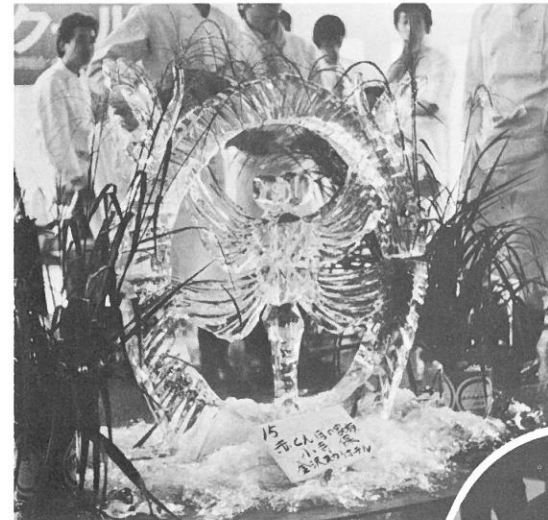
ボクのハーモニイ聞いて



自慢ののどをご披露



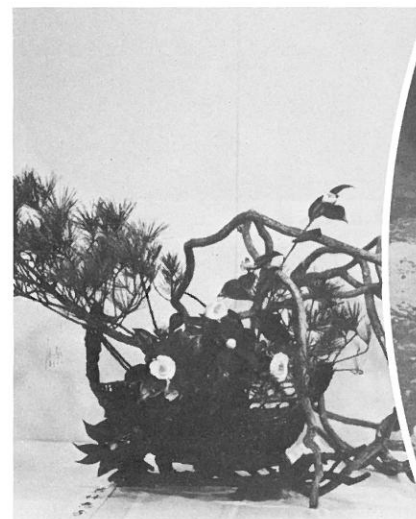
まかふしぎ エイ!!と空中へ



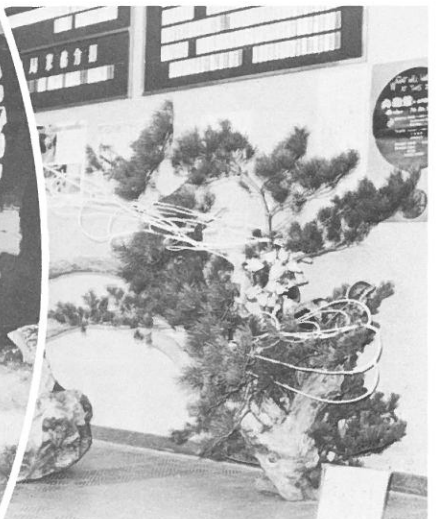
氷彫刻コンクール最優秀



氷の芸術にいどむ



自然界へ誘う!!



造形生花



生花展会場



あいにくの雨の中でのみの市



果物つめに大忙がし



産地直送安いよ果物



特設会場大盛況



力作揃いの美術展 ▲

▼ユウウの運勢は



盛況の飲食店



お点前いかが



早く並んで大鼓行列のハジマリ



秋晴れの10月2日(日)午前10時より金沢問屋センター10周年行事の一環として、物故組合員の追悼法要が金沢東別院に於いて、遺族24名、各社代表80余名が出席して、しめやかに営なれました。

本堂内陣の仏前には、物故者24名の遺影(写真)が飾られ、坂川栄一氏の司会により法要が始まりました。まずはじめに小川理事長の遺族ならびに参詣者への挨拶にはじまり、東別院出雲路善嗣輪番導師のもとに、金沢市内各寺院の住職方の出仕を仰ぎ、おごそかな読経に入り、小川理事長より物故者への追悼の言葉を頂戴致し、遺族ならびに各参詣者の御焼香が行なわれ、

### 共栄電機(株)2回目の優勝

男子7名、女子2名の混合ソフトボール大会は、今年で3回目を迎え、去る9月23日、天候にめぐまれた問屋センター球場で、昨年の20チームを大幅に上回る30チームが参加して、午前7時より熱戦が展開され、共栄電機が通算2度目の優勝を飾り、今年より新調し



優勝 共栄電機(株)

その後に、輪番より「今現在皆さんが元気で幸福に暮しているのも、問屋センター及び各社が順調に発展しているのも、故人のお蔭であることを忘れてはならない。先祖の心を大切にしていくなれば、皆さんが仲良く生きてゆくのを故人は必ず見守って下さいますよ」との心の法話を頂戴致し、遺族一同感激ひとしおの一時であった。

最後に遺族を代表して、石織(株)社長山田治男氏より本日の追悼法要のお礼の挨拶があり、その後、御堂前で遺族ならびに参詣者一同の記念撮影があり、物故組合員追悼法要をとどこおりなく終えた。



た優勝旗を手にした。

- 優勝 共栄電機(株)
- 準優勝 久江田(株)
- 第3位 丸与商事(株)
- 〃 福助商事(株)
- 最優秀選手賞 共栄電機(株) 西島選手
- 敢闘賞 久江田(株) 西 選手



2位 久江田(株)

